

地域を知ろう(25)

民話・伝説

No.5 彰義隊の屯所

和田にあった彰義隊の屯所

この場所は和田一丁目六十三番地付近で、今の区立和田保育園のあたり、戦前まで「しがらき山」と呼ばれていた処がありました。この地を青梅街道の中野鍋屋横丁から分かれた昔の妙法寺道が通っていました。

江戸時代、府内の多くの善男善女達がここを通過して堀之内のお祖師様へお参りに行ったりお参りです。つまり参詣道路で、従って沿道には、ここかしこにお茶屋、料理屋が出来ていました。ここにも「しから木」という古いのれんの茶屋兼料理屋があった。いつも信仰あつて、参詣の人々で賑わっていたので、特にこの店の庭園も中々立派なこった造りで、真中に大きな山があり、人々はこれを「しがらき山」と呼んでいました。

を編成して上野の山にたてこもりました。大村益次郎指揮による近代兵器の前面にあえなく壊滅してしまいました。この時、ここで彰義隊の応援部隊がこの「しがら木」に駐屯して、中央の形勢をうかがいながら待機していました。江戸城から持ち出した旧式武器などを保持してこの「しがら木山」などで訓練したこのころの「しがら木」の敷地が一万坪、つまり三万三千平方メートルという広大なもので、今の女子美の周辺はお茶畑となつていたそうです。彰義隊本体が上野で敗北した知らせは、いち早くこの部隊にもたらされました。勝負はすでに決まると判断した隊長は、もうこれ以上抵抗は無益であるとして隊を解散したのです。

明治維新の時、官軍に反抗した下級武士達は彰義隊

ましたが、その結果「しがら木」の前を通る人は半分以上になつてしまいました。そして店も閉じてしまいました。新たに「志がら木」が新道の妙法寺口に店を開き、戦中まで店を張っていました。

下図左が「和田保育園、右が女子美



妙法寺参詣道の賑わい

